

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(4月3日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①研究授業や授業見学を更に活性化させ、学校全体としての組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②基礎学力の充実を図ると同時に、各教科やクラス内における学力の偏りに対応する授業等の実践を目指す。</p> <p>③カリキュラムや各行事の充実を図りながら、授業時数の確保を目指す。</p>	<p>①効果的な授業改善（ICTの活用やアクティブ・ラーニング型を含む）に向けた研修を行うとともに、授業見学がしやすい環境づくりを促進する。</p> <p>②学び直しが必要な生徒の確認と、高校レベルの授業に適応できる学力の育成ができる環境づくりを行う。</p> <p>③行事を精選し、各講座の授業時数の確保を目指す。また、同一講座における授業時数のクラス間格差の解消を図る。</p>	<p>①授業改善において、ICTの活用やアクティブ・ラーニング等をすべての教員が取り入れ、生徒が主体的に取り組む新たな授業運営を行う。また、見学の時期を十分検討し、見学しやすい時期に授業見学を設定するとともに、見学した授業のアンケートの回収を徹底する。</p> <p>②授業時間内小テストや生徒による授業評価等を活用し、確かな学力の定着を図る。また、放課後や長期休業中を利用した、学力向上のための補習を実施する。</p> <p>③各科の校外授業や、学期末の特別講座等を確認し、各講座の授業時数の調整を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価項目4「生徒主体の授業の工夫」において「4かなり当てはまる」の回答率が3割以上となったか。</p> <p>②学習状況調査と補習受講生徒の学力の変化を検証し、確かな学力の向上が図られたか。</p> <p>③各講座の授業時間数を確認し、授業時数の確保ができたか。</p>	<p>○生徒による授業評価では、項目4「生徒主体の授業の工夫」において、「4かなり当てはまる」の回答率が全教科で3割以上となった。</p> <p>○授業評価を検証し、長期休業中や放課後に補習を実施し、生徒の理解向上につなげられるように取り組んだ。</p> <p>○各種行事等のスケジュールを見直しながら、授業時数を確保できるように調整を行った。</p>	<p>○生徒による授業評価の内容を今後も検討し、ICTやアクティブ・ラーニングを取り入れ、基礎学力の向上とともに、生徒主体の授業の充実に努める。</p> <p>○生徒による授業評価を細かく検証するとともに、基礎力診断テストにも参加し、生徒の学力を的確に把握する。</p> <p>○農商併設校としての特色を活かし、企業見学などの課外授業を通じて生徒の専門性を高めるとともに、授業時数を確保して確かな学力の向上を目指し、産業社会に必要とされる人材の育成を目指す。</p>	<p>○本を読むことの重要性を再認識する必要がある。読書の習慣づけができれば、さらなる基礎学力の向上が図られる。</p> <p>○生徒たちが、自由選択科目を積極的に受講するよう動機付けを行う。</p> <p>○農業クラブ活動における活躍、特に農業鑑定競技で入賞者が継続して多いということは指導内容が充実していることの証である。同様に、総合ビジネス科生徒の英語スピーチコンテストにおける継続した高い評価や資格取得率の高さも指導方法の充実さが窺える。</p>	<p>○積極的に言語活動を取り入れた授業展開の工夫や、実験・実習の工夫、商品開発、地域連携、高大連携、国際交流、日本版デュアルシステム導入など、様々な積極的な取り組みの成功により、生徒の満足度の高い授業を展開している。</p>	<p>○グローバル社会を見据え、英語をはじめとした語学力の向上を図る。</p> <p>○学力診断テストの導入により、生徒自身が自身の学力を客観的に検証し、弱点を克服できるよう教員のサポート体制を構築する。</p> <p>○農商連携をさらに深めるために、特色ある学習内容について、科を超えた連携をより一層深める。</p> <p>○成績不振者や、消極的な姿勢の生徒に対して、さらなる授業改善を行い、指導内容を充実させる。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③部活動の活性化を通して、問題解決能力を育み責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりの生活指導を徹底するとともに、校外活動でのルール・マナーの指導を徹底し、個々の悩みに応じた指導により、円滑な学校生活を送ることができるよう支援する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③部、生徒会、委員会、農業クラブ、商友会活動の活性化を推進していく。</p>	<p>①挨拶の励行と服装や頭髪等、身だしなみ指導の徹底を図るとともに、携帯電話やSNSの正しい利用マナーの徹底を図る。また、組織的かつ迅速な生徒指導・生徒相談体制の確立を図る。</p> <p>②各種行事において、生徒が主体的に動く生徒会活動の支援を行い、委員会運営を通して縦横にわたる豊かなコミュニケーションと行動力を育む。また、教員間における仕事の連携と情報交換の充実化を図る。</p> <p>③顧問総会を定期的に開催し、課題等や情報を共有し、部活動の活性化の支援を行う。</p>	<p>①身だしなみ指導の徹底を図れたか。また、講演会や委員会の実施により、携帯電話や交通安全などのマナー・ルールの徹底が図れたか。さらに、事故発生時の迅速な対応と相談の体制を確立することができたか。</p> <p>②行事運営において生徒主体の円滑な運営ができたか。</p> <p>③生徒、教員間の共通理解を持った活動の支援が実施できたか。</p>	<p>○スクールカウンセラーや医療機関と連携を図るとともに、ケース会議の実施回数を増やし、困り感を持った生徒に関し、教員間での情報共有を行った。</p> <p>○毎月の正門での頭髪・服装指導を組織的に行い、担任・学年と生徒指導グループが連携し、身だしなみ指導の徹底を図った。また、携帯電話の正しい利用について講演会を行い、適切な指導を行うことができた。</p> <p>○生徒会では他校の生徒会との連携を図った。卓球部、バレーボール部、畜産部、E S S部などが好成績を残した。</p> <p>○交通安全においては、地区や保護者と連携し啓発に努め、大きな事故なくマナーの徹底を図ることができた。</p>	<p>○スクールソーシャルワーカーの活用を視野に入れ、児童相談所や医療機関などとの連携を強化し、学校だけではなく、外部との連携により、生徒が安心して学校生活を送れる取組を推進する。</p> <p>○交通安全については、軽微な事故が数件あるが、大事故に繋がらないよう注意喚起するとともに、より交通安全ルールの徹底を図りたい。</p> <p>○行事を、一部の生徒の活動にせず、全生徒が積極的に取り組むよう、さらに工夫する。</p> <p>○入部率は、昨年度比で文化部 2.2%増加したが、運動部は 1.4%減少した。部活動の活性化に向けた入部率向上のために、「新入生部活動見学」の充実を図り、部活動加入率を高める。</p>	<p>○生徒指導はしっかりと取り組まれている。丁寧な対応を今後も継続して行わなければならない。</p> <p>○挨拶の励行をはじめ、マナーの向上・定着もなされており、「生徒の心に響く生徒指導」が一定の成果をあげている。</p> <p>○相模原地区の生徒会交流、意見交換を定期的に行い、生徒会活動の活性化が図られている。</p>	<p>○「心に響く生徒指導」を押し進め、頭髪・服装の改善指導を継続するとともに、SNSや自転車のマナー向上については、生徒に考えさせる指導、主体的に行動できる指導を徹底する。</p>	

3	進路指導・支援	専門性の高い知識と技術を育み、社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、社会人基礎力を主体的に身につけるとともに、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。	進路指導内容の精査及びデータ化を行い、生徒一人ひとりの将来の進路選択を見据えたきめ細やかな進路指導の実践を行うとともに、卒業後の追跡調査の基盤をつくる。	①ベテラン教員の知識や経験、面接・履歴書作成等のノウハウをデータ化するとともに、新入試システムに向けて各大学の情報収集を行い、生徒個々の進路実現に向け組織的に進路指導を行う。また、専門学科と協力し、高校卒業後すぐに就職した者だけでなく、進学した卒業生に対して特に専門分野への就職についての追跡調査の基盤づくり・調査を行う。さらにインターンシップ等への積極的な参加を促す。	進路状況データ、インターンシップ等の参加状況、生徒の進路意識を高めることができたか。また、卒業生に向けた進路先調査を行うための検討を行うことができたか。	○就職者のサポート対策や履歴書作成の内容についてデータとしてまとめることができた。 ○進学者への追跡調査については、来年度に向けた予算を確保する方向で基盤整備を行った。 ○インターンシップへの参加者を大幅に増やすことができた。	○就職希望者の人数が多く、グループだけでは個々に応じた対応が難しい時期があった。今後は学年団との連携を図りながら分担を行う必要がある。 ○来年度の予算確保に伴い、調査の実施を行う。 ○今後も積極的なインターンシップへの参加を促す。	○進路未決定者もいるが十分すぎる成果が出ている。就職の中途退社、進学の途中退学にならないような、丁寧な進路指導を継続させる。	○年間を通して計画的できめ細やかな進路指導を行い、生徒の進路実現が達成できている。	○経験年数の少ない教員の増加に伴い、指導力向上のための教職員研修を今年度も継続して実施する。
4	地域等との協働	①地域産業界と連携し、個性豊かな人間性や社会性を培うために、農業科・商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、社会に貢献することができる生徒の育成を実現していく。 ②社会の動向に柔軟に対応できる産業人の育成に向けた専門教育活動の充実を図る。	①協働活動、貢献活動の把握と効果の検証、見直しを行う。 ②専門性の向上を図りつつ、教科の枠を超えた普通科・農業科・商業科の更なる協働の教育活動を展開・発展させる。	①文化祭で地域産業の紹介やワークショップなどを通して地域との連携を深化させるための企画を検討する。また、生産現場での体験参加を促し、地域産業との連携活動に積極的に取り組む。さらに、防災訓練の合同実施に向けた協議を実施する。 ②各学科の特色ある学習内容の充実・発展を図るとともに、地域及び地域産業との協働・連携により、現場体験実習や資格取得を通して、将来の進路選択について、より具体的に受け止め、主体的に物事を考え、行動する力を養う。	①地域と連携した行事計画の立案等積極的な活動実践を行うことができたか。また、合同防災訓練に向けた協議を実施することができたか。 ②地域及び地域産業との協働・連携により、農業・商業の知識・理解を深めることができたか。	○農商連携において、4科の課題研究発表会を互いに見学し、ホームページや学校説明会を通じて、中学校、商工会議所など地域全体に広くPRを行った。 ○企業や商店街など、地域産業界と連携し、橋本七夕まつりでのボランティア活動を実施した。 ○昨年と比較して、大幅に農業体験実習への参加者を増やすことができ、専門分野への積極的な進路選択意識を身に付けさせることができた。	○ホームページ等を利用して、相原夢工房への来店客を増やすなど、総合ビジネス科の取組をより広くPRする。 ○農業クラブと商友会の連携をより深め、来年度に向けて具体的な活動に繋げていく。 ○来年度も引き続き農業体験等への参加希望生徒数を維持するように努める。	○生徒たちには地域の様々な行事をはじめ、地域活動に参加してもらい、活性化も図ら取組をより広くPRする。今後とも是非継続していただきたい。	○様々な地域との連携がなされており、地域の活性化に貢献するとともに、奉仕精神の育成をはじめ、豊かな人間性の向上が図られている。	○積極的に取り組む生徒数の増加を図り、生徒全員が組織的に取り組む活動へと輪を広げるため、呼びかけを含め参加方法を工夫する。
5	学校管理 学校運営	①様々な事故を防ぐため、全職員の組織的な取り組みを進める。 ②災害発生時の体制作りを進める。 ③教育環境の整備を推進する。	①各種重要情報の取扱いにおける管理の徹底と事故の防止を図る。 ②防災備蓄品の把握と見直し、整備の実施、及び災害発生時の対応についての検証を行う。 ③教室環境の整備を実施する。	①成績処理における点検マニュアルの見直しを行うとともに、各種フォルダの利用方法の見直しを行う。また、事故防止を徹底させるため、より充実した研修会を実施する。 ②防災備蓄品の点検と更新を推進し、分散備蓄場所の検討を行うとともに、災害発生時の連絡方法を検証し、生徒・職員への周知を進める。 ③教室設備・備品、用具の点検を行い整備を推進する。	①事故を未然に防止できたか。また、点検と更新をすることができたか。さらには、校内研修が実施できたか。 ②点検と更新を行うことができたか。 ③点検と整備を推進することができたか。	○成績処理における点検マニュアルの見直しを行い、事故防止を徹底させるため、研修を徹底して行った。 ○防災備蓄品の点検と更新を行った。また、分散備蓄場所の検討を行った。 ○教室整備・備品、用具の点検を行った。	○災害発生時の連絡方法が検証しきれなかった。 ○防災備品については、予算措置が必要なことから、少しずつ改善を進めなければならない。 ○冬季防寒着による身だしなみの徹底に、指導上の課題があり、徹底を図りたい。また、SNSの使用に係る事案もあり、講演会だけではなく、日頃から担任や生徒指導担当が啓発していくことが重要である。	○防災関連では、3.11の時には、避難所に来た通勤の方や地域の方の対応があった。今後、各施設との連携や、体制づくりを一層進めていかなければならない。 ○平成31年の移転に向けて、生徒のためにできることはやってほしい。 ○プレハブ校舎の老朽化がやはり気になります。また、校内中央道が開放されていて不特定多数の方の往来があるが、防犯面の対策において非常に気になる。	○ネットワークの利用、セキュリティやモラルについての昨年度の研修を通じて、生徒との連絡方法の改善を徹底することができた。	○データ管理や生徒・保護者との新たな連絡方法を徹底させるため、教職員研修の充実を図る。